

2020年5月30日『教会は大患難を通るのか？』

アミール・ツアルファティ

- 教会は大患難を通過すると聖書は教えているのか？ -

<https://youtu.be/OcHtxHIQJC8>

[アミール] では、議論を始めましょう。テーマは、「教会は大患難を経験するのか？」まず、皆さんに問題提起をして、そこから始めます。私は今、新しいメッセージを書いています。ヨハネの黙示録11章にある、二人の証人についてです。神がエルサレムに派遣して神殿の隣で話をする、二人の証人です。彼らは神殿を測ります。私たちは、この二人が神から与えられた特別な力を持った、特別な任務を持つ、特別な人たちであることを知っています。彼らは、底知れぬ所から来る獣による特別な扱いを受けます。そして、彼らにはまた、非常に特別な方法で、最終的に天国に行きます。何か...イエスご自身を彷彿とさせます。こちらは3日半で、その後彼らは復活します。そして、それによって多くの人が、神が動いておられることを理解するようになります。しかし私が言いたいのは、皆さん、この二人の証人は、聖書が非常に明確に時間枠を告げています。どのくらいの期間、彼らはエルサレムで伝道するのか、また、その後どのくらいの期間、都が異邦人の足下で踏み荒らされるのか？彼らは1,260日の間伝道すると言われていて、これは、聖書のユダヤ暦でちょうど3年半です。そしてそれから、その都が異邦人に与えられると告げています。すなわち、ユダヤ人が42ヶ月、つまり、次の3年半の間、いなくなるのです。つまり、私たちが知っている7年間の大患難の、前半に彼らはそこにいるという事です。興味深いのは、章全体を通して、信者についての言及はどこにも出てこないことです。教会のことは、どこにも書いてありません。実際には、彼らだけが証人として数えられています。さて、なぜ私がそんなことを言っているのかというと、なぜならイザヤ43章10節の書の中で、主はイスラエルに「あなたがたはわたしの証人」と語られていて、そして、使徒の働き1章8節では、主は生まれたばかりの教会に「あなたがたはわたしの証人」と語っておられます。そして次に私たちは、使徒の働き1章8節で、神に委託された証人たちが、エルサレムから始まり、ユダヤとサマリアと世界の四隅で、あらゆる国の人々を弟子とするのを見ています。彼らは、神の証人として神の業をする目的でそこに置かれた人たちで、彼らは、黙示録11章には記載されていません。そして、そこで見られるのは、2人の証人だけです。何らかの理由で教会がなくなってしまう、この時、証人はとても力強い特別な2人だけです。私たちは、いません。そこで、私がこの議論の中で最初に投げかけたかったのは、私が信じる理由について、まず一つ目は、大患難は7年の期間であり、それ以下ではないということ。なぜなら、彼らが3年半の間そこにいます。そしてそれは、綺麗ではありません。そして後に、この都は、異邦人によって完全に踏み荒らされると言い、次の3年半の間、異邦人に与えられます。もちろん、これはダニエルが、七十週の最後の週のイスラエルについて語った記述に当てはまります。ということで、主要な聖句を取り上げて本格的に議論をする前に、これが第一の議論です。ジェフ牧師、実際、私たちのイギリスでの会話が、この配信を決めるきっかけでした。あなたが出会った、地元のイギリス人は、実際に大患難前の携拳の話を聞いたことがなかったそうですね。それ以前に、その人は、携拳について聞いた事がないかもしれませんね。では、その出会いと、あなたが彼に共有したものを教えてください。

[ジェフ牧師] そうですね、まさにその通りです。携拳の話をしていた時、この人を見ていて、彼らは携拳の話を聞いたことがないと分かったのです。理由は、よく耳にする事ですが、聖書のどこにもそんなことは書いていないから。聖書のどこにも「携拳」という言葉を見かけない、と。だから、彼らは、これは実際に聖書的なものではないという印象を持っています。なぜなら、聖書の中に「携拳」という言葉がないから。そして、それについて話し始めて、いくつかの聖句を見ていくうちに色々分かって来るでしょうが、私が彼らに、テサロニケ人への手紙第一4章から説明しているうちに明らかになったのは、実際の理解、実際の概念は「捕らえられる」であり、明らかに元の言語は「ハルパゾー (ἄρπαζω)」そのギリシャ語の単語は、4世紀に書かれたラテン語聖書ヴルゲートでは「ラプトゥーロ (RAPTURO)」でした。両親に感謝な事に、私は中1~2年生でラテン語を習ったのでラテン語が少し分かるのですが、それは「引き上げられ

る」という考えです。そして、まさにその原則は聖書の中に非常に多く存在しています。明らかにこれから話す中で解き明かして行きますが、ただ、それについて、もう一つだけ私の考えを言えば、ダニエル書9章に戻れば、先ほどアミールが言ったように、すべての始まりはここからで、最後の70週目の7年間は、まだ成就していません。ダニエルが語った「70週」。神が大天使ガブリエルを通してダニエルにお与えになったこの言葉を、根本的なスタート地点として始めることがとても重要だと思います。そして、その言葉を彼に与えたとき、こう言っています。「イスラエルとエルサレムの町のために70週が定められている」非常に具体的です。そして、私たちは見てきましたね。69週が成就され、まだ最後の1週が残っています。教会は最初の69週には関わっておらず、そして、その最後の70週目にも、教会が関わる理由はないと断言できます。

[アミール] それはとても良いポイントですね。バリー牧師、敬意を込めて次のように言う人に対して、何と答えますか？「マタイ24章で、イエスは、来たるべき大患難について語っている」彼らが言うには、そこに「選ばれた者たち」という言葉が出てくる…22節だったと思います。つまり、彼が書いたことはすべて、現代の教会に関する事だ、と。これにどう対応しますか？

もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ばれた者のために、その日数は少なくされます。(マタイ24:22)

[バリー牧師] まあ、神を信じる人には、ある種の用語が関連付けられていることを思えば、詩篇148編では、イスラエルが「聖徒」と呼ばれ、それなのに教会時代にも「聖徒」がいますし、大患難時代にも「聖徒」がいます。しかし、私たちは教会がイスラエルではないことも知っています。イスラエルは教会ではありません。しかし、どちらも同じ名前でもラベル付けされています。そして、新約聖書の中には、「選ばれた者たち」が教会を指すことがあり、「選ばれた者たち」が、自分の自由意志でイエス・キリストに信仰を置いた人々を指すことがあり、そして、「選ばれた者たち」がイスラエルを指すことがあります。特にヨハネの黙示録やマタイ24章のような箇所では、ジェフが言っていた70週目について議論されています。しかし私は、オリーブ山の垂訓は、厳格にイスラエルの国に限定されてはいない、と思います。大患難に至る前兆や人類の特性についての示唆があると思います。しかし、1つ思うことは、ただその具体的な用語を使って、「選ばれた者たち」という言葉や、「聖徒」、「同胞」という言葉が使われている為に、すべてが「教会」というカテゴリーに一括りにひとくくされますが、聖書は、そうではありません。

[アミール] つまり、基本的にイエスが警告した時に、「安息日にならないように祈りなさい」と言われ、そして主が、逃げることや起こる事すべてについて話されたオリーブ山の垂訓すいこんの、その特定の部分は、イスラエルのことを指していると思いますか？

[バリー牧師] ああ、もちろんです。教会は安息日を守りませんから。

「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません。」

(マルコ2:27)

それは、イスラエル特有の礼拝習慣でした。これもまた、私たちが認識しなければならない要素の一つを指し示しています。ヨハネの黙示録では、いったん6章が始まると、すべての慣用句や比喩的な言葉が再びユダヤ的なものになり、教会がその場にいらないことを暗示しています。ですから繰り返しますが、オリーブ山の垂訓の中で言及されているその部分を見ると、その全ての中心となる、15節やその周辺に、具体的にイスラエルの国に起こる特定の出来事があります。それは「荒らす忌まわしいもの」であり、ユダヤ人は逃げるように言われています。そして、上着を取りに戻ったり、他の物を取り出そうとしてはいけない、と。

[アミール] ええ。大患難の最中のイスラエルについて、ダニエルが語った言葉を考えれば「国が始まって以来その時まで、かつてなかった」(ダニエル書12:1)。それはまさにイエスがおっしゃった事で、「もしその日数が少なくされないなら、一人も救われられないでしょう」(マタイ24:22)だから、それは間違いな

く一致していて、確かにダニエルはイスラエルについて話し、さらにはイエスもイスラエルについて話されました。ところで、私はいつもこの慣用句やフレーズを使います。「大患難はイスラエルの救いのためである」私は、いつもそう言います。変に聞こえる事も分かっていますが、しかし私がこう言うのは、人々に理解してもらうことが重要だからです。イスラエルは、まだ反抗状態にあります。つまり、私たちはそれを見えています。彼らはまだイエスを拒絶しています。だからこそ、ホセア書5章15節で主が仰ることが、私の耳でなり響くのです。

「彼らが自分の罪を認め、わたしの顔を慕い求めるまで、わたしはわたしの所に戻っていよう。彼らは苦しみながら、わたしを捜し求めよう。」 (ホセア5:15)

だから、大惨事が起きなければならないのです。唯一その時、ユダヤ人は罪を認め、ユダヤ人が宗教性とすべての伝統を捨てて、きれいな手で神のもとに行くのです。マイク牧師、二つの聖句について話しましょう。ヨハネの手紙と、そして黙示録で、神は、これらのすべてのことを私たちに経験させない、という事実について述べています。それを説明してくれませんか？

[マイク牧師] はい、もちろんです。ヨハネの福音書では、当時、かなりストレスを感じていた弟子たちに向かって言っています。それもそうでしょう。ローマが、この地を支配していて、彼らは多くの迫害が迫るのを見ていました。そして、イエスはヨハネ14章の最初の数節で、彼らを慰めています。彼は言われます。

「わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしののもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。」
(ヨハネ14:3)

皆さんはどうか分かりませんが、私が当時の弟子の一人であったならば、それはとても慰めになるでしょう。そして、アミール、携挙の教義の美は、まさに「これらのことばをもって互いに励まし合いなさい」**(第1テサロニケ4:18)**。これは、テサロニケ第一で再び聞かれ、そして、4章と5章でそれを解き明かしています。私たちが次に求めるものは、主が来られることです。そして、バリー牧師が言っていたことに簡単に戻りたいのですが、私は100%同意します、バリー牧師。マタイによる福音書24章の聖句は、面白いのが、マタイが使っている文学的な戦術には、携挙期間の前後を問わず、ユダヤ人がそれを読んでいることを知って、交差配列法が使われているのです。彼らは、それが壊滅的で恐ろしい、御怒りに至るまでの出来事であることを理解するでしょう。しかし信者である私たちは、御怒りを経験しない事が約束されています。私たちは御怒りから救われています。そして我々は、希望と励ましを期待しているのです。もし私たちが、教会として携挙を通過するのであれば、これは、ジェフ牧師が言ったように、本当に私たちのためのものではないので非常に混乱してしまいます。もう一方で私たちは、希望と励ましをもって互いに慰め合うことができるのでしょうか？主が来られて、主がおられる場所に私たちを連れて行ってくださる希望？それとも、この大惨事に備えて、常に不安で完全に混乱していなければならないのでしょうか？聖書は、他にも多くの箇所ですべて語っています。慰めと希望、そして主の現れが差し迫るにつれ、主に目を向けるように、と。

[アミール] ええ。では、別の問題に取り組みしましょう。教会が大患難を経験しないという話をするとき、ある人たちは言います。「大患難は後半の部分だけだ」これは、彼らが言っている事です。

「実際、教会は神の御怒りに会うように定められていないかもしれないが、その御怒りは最後の七つの鉢だけで、それ以外は違う」

それでジェフ牧師、そう議論をしている人たちに何と言いますか？

[ジェフ牧師] はい、繰り返しますが、ダニエル書9章の前に戻ってみましょう。神が語られた事実を見れば、「これはイスラエルのため、そしてエルサレムの町のためである」この7年の全期間は、特にこれらの

目的のためです。しかし、理解しておくべき重要な事は、6章の時点でさえこの7年の期間、黙示録の6章から19章の早い段階で、すでに認識、識別があって、「**小羊の怒り**とから、**私たちをかくまってくれ**。(黙示録6:16)」。降りかかる裁きは、明らかに神から来ているという認識がすでにあります。ですから、マイクが話していたように、花嫁として、教会として、私たちはその御怒りに会うようには定められていません。ですから、その部分は、すでに使徒ヨハネが、私たちに天からの視点を与えていることが分かります。これらの馬の乗り手たちは、基本的には小羊によって裁きに行くように指示されているのです。ですから明らかに、その裁きは…正直なところ、私にとっては、このことが大患難について話すときの鍵の一つであり、7年の期間について話すときの鍵であると思います。何が目的なのかを皆が理解することがとても重要です。理由は何か？なぜこんなことが起きているのか、何が起きているのか、ということを理解するためには、核心に立ち返る必要があると思います。そして、例えばイザヤ書13章6節、9節、10節を見てみると、神が明確に宣言しています。

泣きわめけ。主の日は近い。全能者から破壊が来る。(イザヤ13:6)

見よ。主の日が来る。残酷な日だ。憤りと燃える怒りをもって、地を荒れすたらせ、罪人たちをそこから根絶やしにする。天の星、天のオリオン座は光を放たず、太陽は日の出から暗く、月も光を放たない。

(イザヤ13:9-10)

基本的に「これは、キリストを拒絶する世界に対するわたしの裁きである」ですから、本当に2つの部分がある事が分かります。アミールも先ほど言っていましたね。神の御心は、イスラエルの国をご自身のもとに戻すことであり、ゼカリヤ書12章10節の、彼がメシアであることを、ついに彼らが認識する瞬間です。イエス、イエシュアが彼らのメシアであり、自分たちが突き刺した方である、と。しかし、それだけではなく、神は義であり、罪を正しく裁かなければなりません。主が与えられた御子を拒絶する者は、その御怒りにさらされます。それは全期間であって、それが小羊の御怒りです。

[アミール] さらに付け加えると、ダニエルが最後の一週である7年間について語る時、彼は「憤り」と言っています。少なくとも英語では「憤り」という言葉を使っていますが、しかしダニエルは英語を話しませんでした。私が言いたいのは、それが「憤り」と訳されていて、その為、人は、「それは“憤り”であって、“御怒り”ではない！」と考えます。でも、ダニエルがヘブライ語とアラム語を話したという事実はどうでしょう？そしてヘブライ語では、「怒り」という言葉は「זאם」です。そして、ヘブライ語の「זאם」という言葉は、御怒りを指します。全体です。だからダニエルが「この怒りの時の終わり」と言う時、(ダニエル8:19共同訳)実際、彼は「御怒り」の後半を言っているのです。彼が言っているのは、基本的に、「7年間全体が御怒りで、しかし御怒りの後半に、ある事が起こる。」ですから、「私たちは神の御怒りに定められていない」というのは、私たちが、神の御怒りの“後半”に定められていないではありません。私たちは、単に、神の御怒りを受ける運命にないのです。つまり、7年間の大患難は私たちのためではありません。

さて、バリー牧師、ヨハネの黙示録の教会への手紙の中には、どのように書かれているのでしょうか？というの、これは…5章、6章、7章…19章までは教会がないということに、皆が同意しています。しかし、黙示録では「教会の御使いに」とあり、手紙が送られ、メッセージが与えられました。一つの教会へのメッセージの中で、私たちがこのすべてを経験しない事の大きな証拠は何でしょうか？

[バリー牧師] さて、フィラデルフィアの教会は言われました。「…全世界に来ようとしている試練の時には、わたしもあなたを守る。」(黙示録3:10)それは明らかに、大患難期間について話しています。ですから、私たちはキリストを愛し、主の血潮で結ばれた共同体の一員であることから、そのような期待があるのだと思います。しかし私たちは、パウロが第一テサロニケ5章で話していたような、御怒りは期待しません。しかしアミール、ラッパの件にも言及しますか？

[アミール] ああ、はい、聞こうと思ってました。もう一つの議論は、「終わりのラッパの時、私たちは

引き上げられる」と書いてあるのを見て、人は、すぐに黙示録のラッパに直行して、「黙示録のラッパが大患難の最中にあるならば、教会は大患難を経験するはずだ」と決めつけます。それについてはどうお考えですか？

[バリー牧師] はい、マイクに聞いたら、私はそれは言わないつもりでした。
[アミール] いや、いや、私はあなたに聞こうとしていました。

[バリー牧師] そうですね。さて、もう一度言いますが、黙示録8章のラッパは、大患難の一連のラッパです。そして鉢の裁きと神の御怒りが極みに達した時、そこが多くの人にとっての分かれ目となっています。第一コリント15章に書かれている「終わりのラッパ」は、大患難の期間の最後のラッパであるはずだ、と。しかし、それは本当に当てはまりません。なぜなら、片方のラッパは合図の為で、そしてパウロは、それを偽りの教えについての説明として使っています。第一コリント14章には、「また、ラッパがはっきりしない音を出したら、だれが戦いの準備をしましょう。」とあります。第一コリント15章で話された終わりのラッパは、教会時代がちょうど終わったという合図です。そして、キリストにある信者は瞬時に神の臨在に移され、不滅で朽ちない栄光のからだになります。ですからそこでは、教会の時代の終わりが、ラッパを吹くというこの一般的な習慣によって示されています。また面白い事に、これは黙示録の7つのラッパのうちの7番目でなければならないというこの主張も、7つのラッパの響きの間に起こる事を見れば、それは神の御怒りです。神の御怒りは、鉢の裁きで始まるわけではありません。前の裁きでも神の御怒りが行われており、地球の植生が破壊されています。悪魔の大群が解放され、他のすべてのことは7つのラッパの間に起こります。それが神の御怒りでなければ、何に分類するのか分かりません。第一テサロニケ5章9節に、私たちは御怒りには定められていないと明記されていて、つまり、鉢やラッパの裁きに関する定めもありません。というわけで、私たちは、いなくならなければなりません。

神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。(第1テサロニケ5章9節)

ちなみに、私たちは、封印の裁きにも定められていません。「今は封印の裁きの最中だ」とか「四つ目の封印が解かれた」とか言うのをよく聞きますが、そしてジェフが見事に指摘しているように、そのどれもが真実ではありません。その全体の期間、「主の日」は、具体的にイスラエルに結びついているフレーズです。私たちに、その特定の日に定められていません。

[アミール] ですから非常に明確にしておくべきで、人々はそれを理解しなければなりません。A)私たちは神の御怒りに定められていません。B)神は、私たちが試練の時「から」連れ去り、そこ「から」守ってくださるのであって、それを「通して」ではありません。それが、フィラデルフィアの教会に言われたことです。わたしはあなたを試練の時を「通して」ではなく、「から」守る。そして、ギリシャ語では、それはとても鮮やかです。そこにある動詞がとても強く、「イク (ἐκ)」です。皆さん、理解することが重要です。もし、イエスが「わたしは、その最中もあなた方と一緒にいる。」と言いたければ、彼は、ギリシャ語でまったく異なる用語を使用していたでしょう。しかし彼は使いませんでした。だから、第一テサロニケ5章では、「私たちは神の御怒りを受けるように定められていない」、フィラデルフィア教会への黙示録の3章では、主は、「これから来ようとしている試練の時からあなたを守る」と言われたのであって、これから来ようとしている試練の時間を「通して」ではありません。ところで、「来ようとしている(試練)」です。言い換えれば、イエスは基本的に、こうっておられるのです。「ほら、わたしはそれが始まる前に、あなたを連れて行くよ。」そして、もちろん、みんな知っていることですが、次は...マイクに尋ねます。次は、そんな恐ろしい時代の真ん中や終わりに、信徒を連れて行く意味はあるのでしょうか？ポイントはどこですか？私は今悪魔の代弁者を演じています。「信徒も、ちょっとぐらい苦しんでも良いのでは？そうすれば彼らは、後で、神にもっと感謝するかもしれません。もしくは、完全に首を切られれば良い。そうすれば、天国のありがたさが分かるだろう。」それに答える時に、携拳の日と時間は誰も知らない、という事実に関連づけてください。どうぞ。

[マイク牧師] では、いくつかの考えをご紹介します。第一に、キリストにあって敬虔に生きようと願うすべての人は迫害を受けます。それは新約聖書で言われました。それは事実であり、真実であり、1世紀以降のどの時代も、民族集団も、言語集団であっても事実です。ですから常に迫害があり、常に患難があります。それが第一で、それは常に期待できます。しかしここで話しているのは、アミール、大いなる御怒り「ザム」での到来です。あなたが明確に説明してくれました。もし、それが私たちの期待すべき事で、それに突入した時、私たちが携挙されるとすれば、それは私たちがすでに話した希望と励ましのメッセージに矛盾しているように見えます。そして私はここで、さらに掘り下げてみたいと思います。それ自体が携挙の証拠からは程遠くて、黙示録4章でヨハネが教会に言及した直後、興味深いことが起こっています。「教会」7つの教会です。そして、4章にはこうあります。

「その後、私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパのような音で私に語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。『ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。』」
(黙示録4:1)

そして、それから全期間、徹底捜査があります。さらに言えば、少なくとも比喩的に言えば、これは私の個人的な信念です。比喩的に言えば、神は教会のためのタイムラインを与えているのだと思います。教会時代の直後、教会がどうなるのか。もし教会が中間で携挙されるなら、その中間で、反キリストによる「荒らす忌まわしいもの」が起こることが分かっています。とすれば、本当の切迫感が全くありません。イスラエルとの和平協定を計算すれば良いだけです。そこから3年半後です。少しぐらいは気が緩むかも知れません。しかし、数日以上気が緩む事はないでしょう。それに対して、誰もその日や時を知らない場合、その緊迫感はどうでしょう。尊敬の念を込めて、アミール。私は握手をして、ボウリングやゴルフにも行きます。どんな患難の見方を信じている人でも、彼らを主にある兄弟と呼びます。しかし、聖書は大患難前の携挙について、非常に具体的に教えていると言わなければなりません。患難後に関しては、個人的には最も立証が難しいと思っています。なぜイエスは花嫁を連れて行って、そして帰ってくるのでしょうか？それから、羊とヤギはどうですか？それをどのように解釈しますか？誰が羊として千年王国に行くんですか？良いですか？非常に紛らわしいですね。また、ユダヤ人の心の中では、最初に婚約をして、その後に結婚式を挙げるという全体的な結婚式のモチーフからも外れています。私は一日中語る事も出来ませんが、少なくとも今の時点では以上にしておきます。それが質問の答えになっていると良いのですが。

[アミール] そうですね。ジェフ牧師、こんな風に言っている人たちに何と言いますか？「ほら、ラッパだよ！だから毎年、ラッパの祭りは携挙が起こり得るんだ。準備をしよう！ラッパの祭りが近づいている。」

[ジェフ牧師] そうですね、私なら彼らに何と言うか？私は「毎日準備をしよう」と言います。アミールが言ったように、イエスは、今、この瞬間にも来ることもあり得ます。そして、私もマイクが言っていたことを考えていました。本当に面白いですし、混乱が入り込むところはたくさんあると思います。パウロは、この問題について何度もはっきりと説明しています。私が思うに...彼は、花嫁のことを言っていましたね？キリストの花嫁。そしてパウロは、コリントの教会に語って言いました。

「私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させたのです」
(第2コリント11:2)

「あなたは、キリストの花嫁なんだ。」と言うように。そして、もちろん、エペソ5章では、再び彼らに伝えようとして、これが奥義であったことを明確にしています。これは、以前は知られていなかったが、今では知られている。それは、キリストと教会です。それは主の花嫁です、あなたはイエスの花嫁です。そして、その原理や概念を理解すれば、もしかしたら・・・あなたが前に指摘したように...

[アミール] ボロボロの妻はいらないでしょ？

[ジェフ牧師] 何ですか？

[アミール] ボロボロの妻はいらないと。

[ジェフ牧師] まさに。花嫁に大患難を通過させて、それから家に連れて行ったりしません。

[アミール] ちなみに、そういう文化もあります。

[ジェフ牧師] それは私たちの神ではなく、私たちが仕える神ではありません。

[アミール] それは私たちの神ではありません。

[ジェフ牧師] 重要なのは、ただ理解すれば・・・時おり起こるのは、人々は旧約聖書の聖句を取り上げ、それを教会に適用しようとします。それが日常的に起こっていて、しかし私たちが抱えている課題は、それは奥義だったのです。その時点で、教会は明らかにされていませんでした。神は後にパウロを用いて、私たちが誰であるか、教会とは何かを明らかにしてくださったのです。そして、アミール。奥義については前にも言っていたと思いますが、あれはとても良かったです。それは秘密ではない。一定数の人にしか理解できないと言うような、排他的ではなく、それは奥義です。実際包括的で、誰でも理解することができるものです。しかし、事実、それを理解する為には調べなければなりません。だからパウロは言ったのです。「私はあなたがたに無知でいてほしくない」理解しなさい。あなた方は、自分で調べて自分が認められている事を示しなさい。そうすれば、理にかないます。これは私の明白な励ましです。私たちが話しているこの問題は、各自が調べ、各自が勉強しなければなりません。とても重要ですから。

[アミール] という事で、ここまでで確立したのは、私たちは神の御怒りに定められていない事。来ようとしている試練の時から、神が私たちを守ってくださる事。大患難は、おもにイスラエルの救いのためであることを確立しました。イエスが、オリーブ山の垂訓の中で、ユダヤ人にこれから来ることを警告された事、そして、まだ患難が始まっていないことも確立しました。そして、もし大患難が始まっていたら、私たちは知っていたでしょう。それが始まるには7年間の和平協定が必要ですから。そして、二人の証人の日数は、1260日であると正確に分かっています。1260日間、イスラエルは神によって荒野で守られます。黙示録12章によると、神がイスラエルのために、その場所を用意されます。ですから、私たちは大患難の全日数と週数と月数を正確に知っています。大患難の最中、私たちがその日その時を知らずして、携挙が起こることはありえません。そして、私たちは、その日その時は知り得ません。

さて、バリー牧師。日にちと時間を知らないことに、何の意味があるのでしょうか。明らかに、聖書が理由を告げています。しかし、ポイントは何でしょう？多くの人が言うのですが、なぜ神は多くのことを教えてくださるのに、その一つだけを私たちは知らないのでしょうか？

[バリー牧師] まあ、神は私たちが自分自身を知っているよりも、私たちのことをよくご存知です。神は人の心をご存知です。「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。」私たちがもし、それが起こる日時を知っていれば、カレンダーに印をつけて、数えれないほどの人が携挙前日まで待って、罪を悔い改めて主の御名を呼ぶ事を、主にご存じです。それは実際には、神のみこころに服従し、神を愛し、神と神の栄光のために日々を生きることではありません。だから、私たちが耳を傾け、毎日主のために生きる必要があることを認識し、いつか私たちが贖われる日が来るといふ、希望と安心感を持って生きていく事が重要です。仮に大昔、その日付を知っていたとして、「それが自分の生涯で起こらないなら、関係ないじゃないか！」そうして、人々は生き・・・多くの人が行うように死に際の改心とか、そういう話を聞きますが、ギリギリまで先延ばしにします。しかし、これだと、すべての世代が、主の教会と空中で会うために、主が来られることを、実感しながら生きることが出来ます。私は、これが誰もその日その時を知らない理由を認識することの、重要な側面だと思います。そして、教会の携挙の後に起こることについては詳細が与えられていて、教会の携挙が近づいている、あるいは近づいている可能性があることを、私たちに示します。そして、それには、今の世界で起こっていることも含まれています。不法がはびこり、その他、パウロが説明した、大患難の期間中に起こる出来事。だからこそ、私たちは、このような時に生き、贖いが近いことを知って見上げることができるのです。私は、イエスが非常に、本当にすぐに教会のために来られると信じています。ですから、私たちがまた、準備をしておく必要があります。そして、これは先ほど述べた要素の一つです。オリーブ山の

垂訓が洪水の前の時代について語っているとき、それは、第二テモテ3章が語る人間の特徵、御怒りの時の前、全世界に裁きが下る前の時代と一致します。オリーブ山の垂訓の前文である、マタイによる福音書24章3-8節には、世界のシーンで起こる事について、書かれていますと思いますが、これらの激変的な出来事のいくつかについては、終わりの日にその頻度と強度が増大します。これらのことから、全般的に、だんだんと近づいて来ている事が分かります。しかし、繰り返しますが、日や時間を知らないことの重要性は、シンプルに、期待感と切迫感を持って生きるためです。特にイエス・キリストの救いの福音を他の人々に伝えるために。

イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たものではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。

(マタイ24:3-8)

[アミール] アーメン、では次にマイクに話を振ります。第一テサロニケ4章でバリー牧師が分かち合ったことに沿ってパウロがテサロニケで携挙の本質について語ったときも、また、第一コリント15章を書いたときも、彼は「大患難」については一切触れていません。彼は、言及することもできただしょう。「なあ、みんな、何人かは死んだようだが、私はあなたを励ますよ。私たちは皆、打ち首になるんだ。恐ろしい事になるぞ。だから、それをもってお互いに励まし合おう。」では、携挙について話しましょう。マイク牧師に聞いたかったのは、この点です。まるで私たちは、大患難の一部を通過しなければならないような感覚があるのは、なぜだと思いますか？つまり、至る所で教会の教義や人々が、「そんなに簡単なはずがない」と考えているのを見ています。彼らはそれを、「簡単すぎる」と言い、「逃避願望」と呼びます。彼らは、私たちがすぐに連れて行かれると信じて、「逃げています」と考えています。私たちは「現実逃避している」と。なぜ、そんなものがあると思いますか？私たちが悪いから、連れて行かれる前に何らかの罰を受けるに値する、と考えるのは律法主義的ではないでしょうか？

[マイク牧師] ええ、私は世界中で多くの人と話したり、会話してきましたが、理由はいくつかあります。一部の人は律法主義で育った背景があって、快適な教会に過剰反応しているのかもしれませんが。繁栄の福音や教会内での苦しみの神学の欠如に対して。それには一理あります。苦しみの話はあまりせず、駐車する位置や繁栄の話など、他の話をしています。だから、それが一因になっている可能性があります。もう一つの理由は、おそらく神学的なことだと思うのですが今日のフォーラムを見ていたら、人々がマタイの24章と25章の一節を引用していましたが、その一節の携挙の部分とレイアウトとの間に混乱があります。バリー牧師が非常に分かりやすく説明してくれました。例えば、マタイ24章を見てみると、イエスは…実際、これを書いているのはマタイですが、彼は、“転換のフレーズ”を使っていて、彼が言うには…どこだったかな・・・「ただし、その日、その時がいつなのかは…」と主は言われます。彼は、主流である出来事の“クローズライン”アプローチから、話題を変えて、次は具体的に信徒に話しかけています。そして、「主の日」というのは、当時の使徒たちが携挙と再臨を含む、神の全体的なプログラムであると理解していたのです。さて、“その日その時”についてですが、これはギリシャ語の突発的な変遷で、それが今、慰めのために、携挙の教義と人は、いつでも取り去られる可能性がある、誰も日も時間も知らないという緊急性を紐解いています。だからアミール。多くの人々が、私たちは大患難を通らなければならないと感じているのは、マタイ24章と25章の解釈を混乱しているからです。そこで起こる混沌の中に、それが織込まれていて、それゆえに混乱を招きます。また、3つ目のポイントにも触れておきます。長くなってしまいましたが、しかし、こんな事を言って、申し訳ありませんが、多くの人々が過去に多くの傷を持っており、それが現実の土台になっています。そして過去にしてきたことや何かで罪悪感を持っていたり、あるいは、精練のプロセスが必要だと感じたりするのです。もしかしたら、私たちの罪に対する神の御怒りをすべて取り去るには、十字架では足りないかも知れ

ない、とか。本当に正直であれば、誰しも過去に許し難い過ちがあるものです。想像の域を出ませんが、これは、私が話をした多くの人から聞いた事で、ある種、“プロテスタント福音主義派の煉獄(れんごく)”のような場所があるべきだと感じているのです。私たちを、終わりの時代に導くもの。私が言いたかったのは、それです。

[アミール] 私の考察の一つですが、みんな、黙示録の苦しみの大きさを理解しているとは思えません。黙示録の現実を把握しているとは思いません。彼らは理解していません。ほら、何人がコロナウイルスに感染しましたか？500万人。それだけです。何人が死亡しましたか？よく分かりませんが、10万人？30万人？50万人？私たちは、大患難には数百万人ではなく、数十億人の犠牲者が出る事を理解しているのでしょうか？魚がいなくなる、と語っていることを理解していますか？世界の水が完全に汚染されて飲めなくなると理解しているのでしょうか？太陽が人を焦がして焼き尽くすことを理解しているのでしょうか？月が血に変わる事を理解していますか？今までに見たことのない地震が起きることを理解していますか？島々は完全に逃げ去ります。その規模でさえ、私たちは理解していますか？まさにその為にイエスが言われたのです。「もしその日数が少なくされないなら、一人も救われなんでしょう」それを理解してさえいれば、今の私たちが経験していることは何でもありません。それは大患難に比べれば子供の遊び場です。あなたが、ただ理解さえすれば・・・神はその恵みによって、私たちがあれではなく、これを経験することを許されたのです。今は、裁きではありません。それは神の恵みです。見てください。9.11を思い出します。私は…ほら、私はそれが起こったとき、そこにいたのです。私は、あの前日そこにいて、それらの建物を見ながら、主宰者である牧師に尋ねました。「何かそれらの建物に当たると、どうなるのですか？右に倒れるのですか？それとも左に倒れますか？」そしたら彼が言ったのです。「あなたがそれを聞くななんて奇妙です。なぜそんな事を聞くのですか？」だから言いました。「でも、下から崩そうとされた事がありましたよね？」そして、彼は言いました。「はい、'98年にありました。」だから、「彼らがもう一度しようとしたら、どうやって止めるのですか？」と。それが興味深い事に、次の日、これらの2つの建物が崩れ落ちたのです。彼らは激突し、その日に3,000人以上が死亡しました。しかし、その後48時間の内に、私の情報源から得た情報では、さらに非常に多くの攻撃が、その日に進行中であり、実際、その瞬間に阻止されていたのです。ありがたいことに、すべての航空交通が停止していたので、西海岸では他の多くの飛行機が墜落を免れました。結局、9.11での犠牲者は、おそらく最終的に、その100倍から200倍くらいになるところでした。そして、多くの人が自問自答していたのを覚えています。「それはアメリカに対する神の裁きなのか？」そして、私の答えは、あれは、アメリカに対する神のあわれみでした。それは、アメリカに対する神の警告だったかもしれません。しかし、もしあなたが神の裁きがどのようなものかを読んでさえいれば、これを裁きとは言わないでしょう。だから、黙示録を読んで、神の御怒りの大きさを理解していたら、教会がその一部や全部を経験しなければならぬなんて示唆することすらしないでしょう。全く理にかないませんから。神がご自身の民に、そのような事をされるなど、考えたり、想像する事すら出来ません。さて、一部の人は言うでしょう。「ちょっと待ってください。大患難の聖徒たちはどうでしょうか？」さて、まさにその為に、彼らが黙示録の中に登場するのです。今すぐに選択するべきである事を、あなたに伝えるためです。あなたは大患難の前の今、選択するべきです。大患難の聖徒のようにはなりたくないでしょう。バリー牧師、大患難の聖徒について、何か言いたいことはありますか？それは、教会と混同されていることの一つですから。

[バリー牧師] そうですね、私たちの人生の患難で私たちが経験すること、私たちの人生の中での迫害と、ヨハネの黙示録の間に行われる迫害とを比較し、さらに、マイクが話していた神学の問題に加えて、もし教会時代の聖徒である私たちが、ある種の罰則的な清めのプロセスを受けるために大患難を通ると見るなら、実際、結局のところ、基本的に、十字架上のイエスの血は私たちの罪の負債を購うには十分ではなかった、ということになります。それは私たちが完全に遠ざかるべきものです。なぜなら、イエスは全世界の罪のために死なれたからです。そして、主の救いの計画を受け入れることで、私たちは御怒りに定められていないグループに入ります。御怒りの問題は、十字架上のキリストを通して、私たちの代わりに解決されましたから。ですから私たち教会は、“生き残っている私たち”という、この“排他的な構成要素”に入ります。「キリストにある死者といっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。」イエスの血は、私たち全員が犯したすべての罪を覆うのに十分だったからです。そこでアミール、先ほど話したように、用語

の問題は、認識が重要だと思います。旧約聖書の聖徒は教会の一員ではないこと。そして、大患難の聖徒も教会の一部ではない事。そして、教会も、同様に聖徒と呼ばれている事。ですから、資格要因は、アブラハムにまで遡るのです。「アブラハムは神を信じ」（ガラテヤ3:6）とあり、そこにこの用語が採用されています。「それが彼の義とみなされました。」（ガラテヤ3:6）だから、信仰を持たずに神を信じることは不可能なのです。そして、神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。（ヘブル11:6）ですから、信仰は明らかに、教会時代以前と教会時代中と大患難期間中の構成要素です。なぜなら殺された人たちは、イエスの証しと神のことばを持っているため、聖徒と呼ばれているからです。繰り返しますが、用語を厳密に用いて、すべての人を単一のカテゴリーにまとめることはできません。なぜなら、先ほど言ったように、さまざまな要素の神を信じる人に関連する用語があるからです。はるか昔のアブラハムから大患難の間に救われる聖徒たちまでずっと、教会を救うのと同じだからです。さて、明らかに彼らは、逃避の機会である人類史上最大の出来事の一つを見逃してしまいます。アミール、あなたが指摘したように、私はいつもその議論が滑稽だと思っています。なぜなら私たちは、「これらすべてのことから“逃れられるように”祈れ」と言われているのです。聞いてください。もし誰かが私を逃亡者と呼びたいのなら、私は有罪です。私は大患難から逃れたいです。私は一切関わりたくありません。そして、イエスを通して私たちは逃れられるのです。私は聖徒ですから。さて、私はキリストの血によって聖徒とされたのです。しかし旧約聖書の聖徒たちがいて、それから…つまり、「信仰の殿堂」であるヘブル11章の人々を見れば、その中には、あらゆる文化や人生経験をした人々がいます。「信仰の殿堂」の名前の中には娼婦がいますね。それから偉大な名前も。そして、ひどく失敗した人たちの名前も、そこに挙がっています。だから聖徒である資格の特徴は、自分自身や私たち自身の行動の外にあるべきで、それは確かにイエスの血です。ですから、イエスが私たちの罪のために血を流す前も、罪のために血を流した後も、教会の時代が終わった後も、私たちは皆、聖徒であると信じています。私たちは互いに異なっても、主を通して救われています。

[アミール] ジェフ牧師、お聞きしたい事があります。私たちは、いつ何が起こるか分からないように生きていくことが大切です。そして多くの人が、こんな風に言っています。「あなたは、携拳がいつでも起こり得ると信じているから、安易なルートを取り、自分自身を備えない。」しかし面白い事に、実際は、携拳が差し迫っていると信じている人たちが、熱心に福音を伝えようとしているのです。それが差し迫っているから。それについてどうですか？

[ジェフ牧師] まあ、そうですね、その通りです。使徒パウロは第一テサロニケ4章でこう言っています。「主ご自身が天から下って来られ…それから生き残っている“私たち”が…」と言ったときに、彼自身もそれを期待していました。彼は「これは私かもしれない」と。これは私かもしれない！私もその一員になれるかもしれない！同じように、彼はテトスに手紙を書いたときにも言いました。テトス2章で、祝福された希望、それは聖めの力であることがわかります。ですから私たちは、それが今、ここで私たちを聖化している事を理解しています。しかしそれはまた、時間があるうちにこの真実を伝えたいという決意と、強い思いを私たちに与えます。人々に、神が忍耐しておられる事を知って欲しいですから。主は誰も滅びることを望んでいません。ある者は嘲笑し、ある者はバカにして、ある者は主はいつ来るのかと言い、「何事も創造の初めからのままではないか」と言って、以前にも大洪水があり、裁きがあったことを故意に忘れています。再び裁きがあるのに、しかし彼らはそれを故意に忘れず。しかし、ここで私たちは、神が言っていることを理解しています。「あなたにチャンスを与えるため、わたしは待っているのだよ。わたしは、あなたがたに対して忍耐深く待っているのだ。ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでいるから。しかし、あなたはその選択をしなければなりません。あなたは、わたしのところに来なければなりません。」だから私は、この裁きの話をするときに、本当にバランスをとるのが好きで、正しい裁判官は正しい裁きをしなければならぬと話す時、私たちはまた、主のあわれみと主の恵み、主の忍耐深さを認識します。悲しいことに、私が思うに、その忍耐深さで何が起こるかということ、人々はそれを神の無関心、あるいは神の無力さだと誤解して、彼らは、「まあ、まだ自分には何も起きていないし。」と考えます。それでも私たちは、主がそれらを裁かれることを知っていなければなりません。そしてもう一つ、この考え全体について、バリー牧師のフォローアップですが、この大患難を、ただ理解する事、アミールが前に使ってい

たと思うのですが、本当に素晴らしい描写でした。なぜなら、こういう質問をする人たちのことを考えていて、「どうして、自分は出て行けると思うんだ？自分は人より優ってると思ってるのか？一体自分は何様だと思ってるんだ？」そこで私たちは言います。「いいえ。これはキリストの義です。」

「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」（第二コリント5:21）

私の力とは全く関係ありません。しかし、私は今、この和解のミニストリーを与えられています。神と和解しなさい！ 神と和解して、神を知ってください！でも、興味深いと思うのは、その節から先に進んでいくと、私たちは使節であると書かれていますね？私たちは、キリストの使節であると告げています。そして、真の使節としての役割と責任について考えると、こんにちの諸国では、彼らは、正しく自分たちの国を代表したいと思っています。彼らは、それを正しく代表する者になりたいと思っています。しかし、もう一つあなたが話していたこと…アミール、あなたはこう言っていましたね。その土地に、裁きや戦争が起こる前に彼らは、自分たちの大使を呼び戻します。自国民を爆撃したり、自国民に裁きを下したりはしませんから。そしてパウロは、私たちの国籍は天にあると言います。ですから、そこが私たちの居場所であり、裁きが下るときには、私たちは自分が属する家に戻るのです。

[アミール] ところで、私は、二つのことが起きないと天国には行けないと思っています。A)私たちは栄光の体に変えられなければなりません。B)私たちがその領域にいるためには、サタンはその領域を離れなければなりません。サタンはここに引っ越します。戦争は地球上に降りてきます。そして、戦争が地上に降りてきているので、大使は呼び戻されて帰ります。彼らは戦争を警告し、戦争の話をしてきて、そして今、彼らは家に召喚されています。

バリー牧師、最後に祈りをお願いします。そしてお祈りは、もちろんできれば、第二コリント6章2節に基づいて「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」もし、あと7年待たなければならぬなら、聖書はそんな事は書かなかったでしょう。あるいは、携挙が迫っているならば、この節には力があります。しかし、もし、それが差し迫っていないなら…ほら、携挙が少なくとも大患難の中間にあるなら、そして、大患難がまだ始まっていないのであれば、私たちは、心配する必要もなければ、準備する必要もありません。私たちには時間がある。それに、今日ではなく救いの日は、数年後になります。それでバリー牧師、祈るときに、その聖句の心で祈って、人々を招いていただけますか？

[バリー牧師] 分かりました。お父様、今日がまだ救いの日である事を感謝します。主よ、あなたの普遍のご性質は、ジェフが思い出させてくれたように、誰も滅びることなく、すべての人の悔い改めを願っておられることを感謝します。そして、主よ、そのために私たちは感謝しています。あなたは、私たちに多くの証拠を与えてくださいました。マシアッハ・ベン・ダビデは、確かにイエス・キリストであり、生ける神の子である事を証明するため。私たちは、私たちが^{くろうわ}寓話に盲目的に従う民ではなく、イエスが預言された救い主であることを含め、真実であり、検証可能で証明可能な事実に従う民であることを感謝します。主よ、あなたに感謝します。今がその時です。そして私たちが救われるのは、あなたの愛と寛大さ、人々があなたを知り、救われる事を願われるゆえです。そして、あなたは私たちに多くの証拠を提示してくださったので、この命の先がある事が証明されていると断言できます。キリストの死者の中からの復活と、その後も存在し続け、今日まで偉大なる御父の右手に座しておられます。主よ。私たちがそこに希望を託し、人生の大きな疑問の一つに答えることができますように。「この先に命はあるのか？」それが私たちのために証明されたことを感謝します。それゆえに、私たちはみことばで語られたバランスを見て、誰でも救われる手段とする事が出来ます。そして主よ、私たちは、イエスがヨハネ14章で言われたように、世に罪を認めさせる、聖霊の働きが人々の上に臨みますように。そして主よ、いま祈ります。聖霊の語りかけによって、これを見ている救われていない人たち全員が、自分は罪びとであり、救い主が必要である事を確信しますように。主よ。救い主を与えてくださったことを感謝します。あなたのひとり子であるナザレのイエス。再び来られ、ご自身の教会と空中でお会いになる方、そして再び、王の王、主の主として教会と共におられる方。しかし、私た

ちはあなたに感謝します。今、私たちに置かれている時間の中で、あなたはまだ救い、あなたはまだ贖^{あがな}っておられ、そして箴言24章(11節)にあるように、「捕らえられて殺されようとする者を救い出」されます。救い主である御自身の御子の血によって、彼らをあなたの家と家族の中に導いてください。だから祈ります。今、お救いください！ホサナ、私たちは祈ります。主よ。今お救いください。今日、この日、決断しようとしている人たちをお救いください。あなたの聖霊の働きとあなたの御言葉の権威によって。あなたは言われました。

「心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。」 (ヤコブ1:21)

今、働いておられるあなたの御霊によって、私たちは皆罪びとであり、救い主が必要である事を確信しますように。そして主よ、多くの証拠があることを感謝します。私たちは揺らぐ事なく、誤解する必要もありません。イエスが救い主です。ですから、主よ。あなたのみことばに感謝します。今日は時間をありがとうございました。私たちは、まだ決意していない人たちが、今、改心し、キリストが生ける神の御子であることを受け入れますように。イエスの御名によって、私たちは祈ります。アーメン

[マイク牧師] アーメン。

[アミール] 本当にうれしいです。皆さん、どうもありがとうございました。バリー牧師、ジェフ牧師、マイク牧師、これでお別れします。さようなら。

皆さんには、ぜひとも声をかけていただきたいと思います。ソーシャルメディアでフォローしていただくと幸いです。私たちのウェブサイトbeholdisrael.orgのニュースレターも、ぜひご登録ください。今、私たちのソーシャルメディア情報が、全て画面下にあります。また、ニュースレターは私が書いていて、皆さんにも、とても励みになるような情報がたくさん入っていますので、ぜひお見知りおきください。聞いてくださり感謝です。ぜひ共有してください。ほら、何百万人ものおびが混乱しています。何百万人ものおびが、自分達も大患難の道を歩まなければならないと信じて、恐怖に怯え震えています。そんな風に生きるのは、とんでもない事です。これを共有して、これで人を慰めてください。一人でも多くの人にシェアしてください。

イスラエルのガリラヤから、そして世界中から、今晚もご参加いただきありがとうございました。私たちは皆さんを愛し、皆さんを祝福し、私たちと一緒にいてくださったことに感謝します。ありがとうございます。シャローム。

God bless you !!!



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.06.02 (Tue)